



弥生人の住居も再現されています



### 能登の弥生ムラを体感しよう 吉崎・次場弥生公園

さかのぼること2,200年前、縄文時代の能登半島に、米づくりの文化を持った人々がやって来ました。

彼らは新しい道具を持ち、土地を耕し、実り豊かな水田を広げ、さまざまな地域との交流を通してムラが栄えました。

この公園は、北陸でも屈指の規模を誇る弥生ムラである、国指定史跡の「吉崎・次場遺跡」を保存し、その一部を再現した野外博物館です。

大きな溝に囲まれたムラに入り、ビジュアルな弥生文化に触れ、歴史を実感してみませんか。

## 教えて！消費生活

### 電気の契約切り替えトラブルに注意！

**Q** 知らない事業者から「電気料金が安くなります。電気料金の明細を教えてください」という電話があった。言われるまま検針票の記載情報などを伝えたところ、昨日電気契約の切り替えの書類が届いた。後刻「書類は届いていますか」と電話があり、初めて先日の電話で契約の申し込みになっていたことが分かった。どうしたら良いか。

**A** 事業者からの電話勧誘で契約の申し込みになり契約書面が送られてきた可能性があります。書面が届いてから8日間経過していないのでクーリングオフができます。電力の小売全面自由化以降、電話勧誘や訪問販売による電気の切り替えに関するトラブルの相談が寄せられています。電力会社などから電話を受けた際には事業者名を確認し、切り替えの意思がなければ検針票の記載情報は伝えず、きっぱり断りましょう。切り替える場合は、契約期間が長期かどうか、解約時に違約金が発生しないかなど、契約条件をしっかりと確認しましょう。困った時は早めに消費生活センター、もしくは経済産業省電力・ガス取引監視等委員会の相談窓口（☎03-3501-5725）に相談してください。

消費生活の相談は市消費生活センター ☎fax 兼用②01133 (来庁相談要予約) 相談時間 平日午前9時～午後4時

## ふじおか Culture

～藤岡の文化を探る～

【問い合わせ 文化財保護課 (☎③5997)】

No.64

### 江戸の学び

～寺子屋ってどんなところ～

江戸時代の民衆教育は寺子屋で行われていました。寺子屋は庶民の子どもが「読み・書き・そろばん」を学ぶ簡易な学校でした。天保～幕末期（1830年～1868年）に盛んで、特に安政～慶応期（1854年～1868年）には1年に300カ所以上の寺子屋が開設されるという驚異的な記録が残され、全国に広く浸透していたことを示しています。確認されている群馬県内の寺子屋の数は約1,500カ所で、藤岡では48カ所でした。日野地区が最も多く、次に小野地区に多く開設されていました。このように江戸後期は寺子屋教育が行き届き、その結果日本人の識字率は世界的にも高い水準に達していました。

寺子屋教育が発達した背景には経済的な要因があり、享保期以降、商品流通が発達すると商売の帳簿の記入や訴状の作成、また年貢を納めるのに文字を読み、書くことが日常に欠かせない手段となっていたためです。大半は習字を中

心とした「いろは」などの手習いを行い、師匠が書いた手本を見ながら学びました。初歩の手習いの次は、手習いの手本でもあり読み物の教科書でもある「往来物」などを学びました。代表的なものは「庭訓往来」「商売往来」「百姓往来」などでした。人間としていかに生きるべきかといった道徳的価値観を重んじ、また子どもの個性・素質・生活環境に適した、日常生活に必要な極めて実用的な教育が行われました。

江戸時代の寺子屋の普及とその文化や伝統は、その後の明治時代の近代教育の基盤となり、近代化が急速に進められたことにもつながっていました。



商売往来 (藤岡市所蔵)

## いまからできる！ 日常防災

Everyday disaster prevention

災害時に自分や大切な家族を守るには知識と備えです。防災は日常に転がっており、生活と密接につながっています。防災を難しく考えず、簡単な日常の行動と結び付けて取り組んでいきませんか。

### 災害時の足元は危険がいっぱい！

【問い合わせ 地域安全課 (☎②7444)】

暑い日が続くようになり、日常的にサンダルを履く機会も多くなってきたのではないのでしょうか。そんな時に想定外の災害に巻き込まれた場合、防災グッズなどの手荷物に気を配ることはできても、足元の防災がおろそかになってしまうことが考えられます。

災害時にはがれきやガラスなどが散乱したり、水たまりなどにより足場が悪くなるのが想定されます。避難する際にくぎやガラス片などの鋭利なものだけがをすると、その部分から細菌が入り込んでしまうこともあります。特に夏場ははだしでサンダルを履いていることが多くなるため、あらかじめ足を守るための手段を考えておくことが重要です。

今回は身近なもので簡単に作れる「安全靴」を紹介します。有事の際に大事な足を守るための方法を知っておきましょう。どの家庭にもあるもので作れるので、一度試してみたいかがでしょうか。

#### ビニール袋と板で安全靴を作る

材料 ビニール袋、板、ひも



①靴が濡れないように、靴の上からビニール袋をかぶせて、くるぶしの辺りでひもを結びます。



②板などの堅いものを靴底の下に敷いて緩まないようにひもで縛ります。